

## JR連合 第36回定期大会を開催



6月17日、京都市内において開催され、辻村中央執行委員長をはじめ貨物連合から4名が参加しました。会を代表して挨拶に立った上村会長は、最重要課題である安全の確立・組織強化・産業政策・2026春闘を含めた労働政策・政治への取り組みを交えながら、JR産業の持続的な成長を通じ、地域と日本全体の持続的発展を目指し、何より組合員とその家族の幸せを築くために、全組

合員が一致団結して力強く取り組んでいくと訴え、来賓挨拶では、連合芳野会長、交運労協池之谷議長、こくみん共済 coop 大友常務、交運共済本田専務より、ご挨拶をいただきました。



続いて執行部より、これまでの活動報告、会計監査報告をした後、今後の運動方針（案）が提起され、質疑応答では12名より発言があり、貨物鉄産労を代表して田代代議員は「日頃より、組織運動に対して多くのご支援を賜り感謝申し上げます。運動を通じて、各地協での取り組みが大きな成果を上げることを実感している。これからも、ご支援をいただきながらJR連合運動に参画し、組織運動を盛り上げていきたい」と力強く発言されました。

質疑後、執行部が答弁し、今井事務局長による集約答弁後、大会宣言（案）が読み上げられ、最後に上村会長による「団結ガンバロー」で、会を終えました。



本定期大会において、女性の参画が代議員79名中、16名となり参画率20.2%となりました。JR連合第4次男女平等参画行動目標では、議決権を行使できる立場での組合員比率に応じた女性の参画機会を確保するように定めています。



JR連合の女性比率は16.6%であることから、今回、達成することができました。引き続き、女性活躍推進法の取り組みを図っていきます。 ※会場には、傍聴を含めて約200名が参集